

中学校社会科単元計画【歴史的分野：世界の古代文明や宗教のおこり】

【単元のねらい】世界の古代文明や宗教のおこりについて、場所や環境に着目して様々な資料を収集し、文明や宗教の特徴を比較することを通して、世界各地で文明が築かれ発展したことを理解させ、現代の生活ともつながっていることに気付かせる。

【単元のめあて】世界の古代文明や宗教のおこりについて、場所や環境に着目して調べ、現代の生活とのつながりをまとめよう。

【単元の課題】世界の古代文明や宗教にはどのような特色があり、どのように発展したのか。

古代文明や宗教と現代の生活との関連についてまとめ、振り返っていく。

1時	【課題】人類はどのように進化したのか、どのような生活をしていたのか。	【活動】人類の出現と広がりを表した地図や土器・石器の写真から、当時の人類の生活を考える。	【まとめ】旧石器時代は打製石器を使い、狩りや採集を行って移動していたが、新石器時代は土器や磨製石器を使い、農耕や牧畜を始めていた。
2時	【課題】古代文明にはどのような特色があるか。	【活動】古代文明の遺物や遺構に関する資料から、四つの文明の特徴を比較する。	【まとめ】大河のほとりで農耕や牧畜が発達し、古代文明がおこった。文字や暦が発明され、青銅器や鉄器もつくられて発展した。
3時	【課題】中国文明はどのように発展していったのか。	【活動】文字や思想、国家のおこりに関する資料から、中国文明の発展について調べる。	【まとめ】中国文明では甲骨文字が作られ、儒学が生まれ、統一帝国が成立すると単位や貨幣も統一され、領土を拡大していった。
4時	【課題】ギリシャ・ローマ文明ではどのような政治が行われ、発展したのか。	【活動】ギリシャ・ローマの政治制度を調べ、現代の政治制度との類似点や相違点を考える。	【まとめ】アテネでは民会を中心に民主的な政治が行われ、ローマでは共和制の国から皇帝が支配する帝政に変わっていった。
5時	【課題】古代にはどのような宗教がおこり、現代につながっているのか。	【活動】宗教のおこりを示した世界地図やそれぞれの宗教に関する資料から特徴を比較する。	【まとめ】古代におこった仏教、キリスト教、イスラム教は「三大宗教」とも呼ばれ、現在も地域をこえて多くの人々に信仰されている。

【単元のまとめ】大河のほとりで農耕や牧畜が発達し、古代文明がおこった。文字や暦が発明され、青銅器や鉄器もつくられて古代文明は発展した。また、古代には、単位や貨幣が統一されたり、民主的な政治が行われたりする国家もあった。「三大宗教」とも呼ばれている仏教、キリスト教、イスラム教もおこり、現在も地域をこえて多くの人々に信仰され続けている。

6時 【単元の振り返り】(視点)世界の古代文明や宗教について調べてきたことをまとめ、古代の文明や宗教と現代の生活の関連について班の中で話し合うことを通して、単元の振り返りとする。